

[様式2]

令和7年度 第2学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

東京都北区立王子第五小学校

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「おくりものについて話し合う」が8ポイント、「文しょうをかく」が17ポイント目標値を下回っている。「かん字をよむ」「ものがたりをよみとる」は、目標値を約10%程度上回っている。それ以外の内容は、目標値とほぼ同じとなっている。	「知識・技能」に関しては、目標値を3ポイント上回っているが、「思考・判断・表現」に関しては、2ポイント下回っている。区の平均正答率と比べると「知識・技能」「思考・判断」ともに下回り、特に「思考・判断」が8ポイント下回っている。	「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、目標値を4ポイント上回っていることから、漢字の読み書きについては、ある程度定着していることが分かる。一方で「文しょうをかく」では正答率が50%でとても低い。「思考・判断」の中でも特に決められた内容について文章を書くことに課題が見られる。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎・応用といった大きな枠で見ると、目標値を上回っているが、近似値となっている。内容を見てみると「たしざん」は目標値を大きく上回っているものの「3つのかずの計算」「かたち」「とけい」では目標値を下回る結果となっている。領域としてみると「図形」の学習の理解度が低い。	「知識・技能」「思考・判断・表現」とも、目標値は上回っているが、近似値となっている。特に「知識・技能」は区や全国の平均を下回っているため、普段の学習において、基礎基本の習得を見直していく必要が感じられる。	それぞれ大きな枠で見ると、目標値は上回っているもので、苦手とする領域・内容の学習における基礎的な内容を確実に習得させていくことで、全体の平均値も上がると考えられる。

[様式2]

令和7年度 第3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全ての内容において、目標値や区の平均正答率を上回る結果となった。「説明文を読み取る」の内容では、区の平均正答率より約9ポイント上回った。「文しょうを書く」の内容では、目標値を5ポイント以上上回った。	2つの観点別正答率については、目標値や区の平均値を上回る結果となった。特に、「思考・判断・表現」については、区の平均正答率を5ポイント以上上回る結果となった。	「漢字を書く」「漢字を読む」については、目標値を上回っていることから、漢字の読み書き、言葉の習得について定着している児童が多くいることが分かる。一方で、「ものがたりを読みとる」や「文しょうを書く」の学習では、正答率は低くはないが、個々の差が大きい。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全体的に目標値や区の平均正答率を上回る結果となった。「三角形と四角形」の内容では、区の平均正答率より10ポイント上回った。	3つの観点別正答率については、目標値や区の平均値を上回る結果となった。「思考・判断・表現」については、3ポイント以上上回る結果となった。	はこの形については、平均正答率が他の内容と比べると低い。また、個々の正答率の差が大きい。「知識・技能」の平均正答率は低くはないが、個々の差が大きい。

〔様式2〕

令和7年度 第4学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>教科全体では目標値を上回るか同等の正答率になっている。一方で漢字の読みでは目標値を7.5ポイント、ローマ字を読む問題でも15ポイント下回っている。また、自分の役割を意識しながら話し合い、考えをまとめる問題でも目標値を7.5ポイント下回った。</p>	<p>「知識・技能」面では漢字の読み書き、ローマ字といった言葉の学習で目標値や全国正答率を下回る設問があった。「思考・判断・表現」のうち、読み取りでは目標値や全国正答率を大きく上回る結果となった。一方、書くことにおいては目標値と同等のポイントとなった。</p>	<p>読み取りの設問に対しての正答率の高さから、文章を読み取る力が身に付いている児童が多いことが分かる。記述問題に対する正答率はやや低いことから、自分の意見を持ち、正しい漢字や言葉を使って表現することに課題のある児童が多くいることが分かった。</p>
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>全ての内容の正答率が目標値を上回り、特に、「大きい数・小数・分数」「かけ算」「□を使った式」「長さ・重さ」「表とぼうグラフ」の内容では10ポイント以上上回る結果となった。しかし、「たし算・ひき算」「わり算」は目標値は超えたものの、他の内容と比べると差が小さかった。</p>	<p>3つの観点別正答率については、全て目標値や区の平均正答率を上回る結果となった。特に、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」については、目標値を10ポイント以上上回った。</p>	<p>「大きい数・小数・分数」や「かけ算」の内容の正答率が特に高い。その中でも「知識・技能」を問う問題の大半が正答率80%を超えていることから、基本的な知識・技能面の理解は概ねできていると言える。しかし、「思考・判断・表現」を問う問題では正答率が70%に満たない。計算の仕方や自分の考えについて説明する力に課題があると考えられる。</p>
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>「植物の観察」「太陽と地面のようす」「音の性質」「電気の通り道」では目標値を上回るか同等の正答率になった。顕微鏡や電子天秤の使い方や昆虫の仲間、磁石の極の分析については目標値を10ポイント以上下回る結果となった。</p>	<p>「知識・技能」では全体的に目標値を下回るか同等のポイントとなった。「思考・判断・表現」は目標値を10ポイント以上上回る部分もあるが、同様に10ポイント以上下回る部分もあった。</p>	<p>知識・技能面の正答率が低く、器具の扱い方や正しい知識が身に付いていない児童がやや多くいることが分かる。また、最後の問題まで解き進めることができずに、無回答が多くなっている児童の割合が多い。</p>

[様式2]

令和7年度 第5学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
教科全体の正答率は目標値を超えたものの、内容別に見ると、「話し合いの内容を聞き取る」で1ポイント、「物語の内容を読み取る」では4ポイント、区平均正答率を下回った。	「知識・技能」「思考・判断・表現」とも、目標値と区の平均正答率を上回っている。ただ、「思考・判断・表現」では、区の平均正答率と近似値となっている。	知識・技能の正答率が高く、内容別に見ても、言語事項や聞き取り、読み取りが高いことから、基本的な知識・技能面は定着していると言える。一方で、記述問題の無解答率も高く、自分の思いや考えを書くことへの苦手意識の克服が今後の課題である。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
半数の内容項目について、区や全国の平均正答率を上回る結果となった。特に「特色ある地域の様子」では、それぞれ区や全国の平均正答率を10ポイント以上上回った。ただ、「先人の働き」では、区の平均正答率を5ポイント下回った。	「知識・技能」「思考・判断・表現」とも、目標値と区の平均正答率を上回っている。ただ、両方とも区の平均正答率と近似値となっている。	領域別の正答率では、「生活を支える活動」「自然災害からくらしを守る活動」「特色ある地域の様子」の領域で区や全国の平均正答率を上回った。ただ、「都道府県の様子」など、社会科用語を問う問題で無回答者が少数いるので、知識の定着に課題が残った。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全ての内容において目標値や区の平均正答率を上回っている。特に「わり算・計算のきまり」「いろいろな形」「変わり方調べ」といった内容が高く、区の平均正答率より15ポイント以上、上回っている。	「知識・技能」「思考・判断・表現」とも、目標値と区の平均正答率を上回っている。特に「知識・技能」は、10ポイント以上、「思考・判断・表現」は9ポイントも上回っている。	「知識・技能」の正答率が84%と高い。内容別に見ても、「分数」「面積」は、正答率90%以上ととても高い。「基礎」の力も高いが、「活用」の力も高い。「思考・判断・表現」の正答率が79%台と高く、答えを求めるだけでなく、その答えを導くことができた理由を考えて学習を進めていることがうかがえる。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全体的に目標値や区の平均正答率を上回る結果となった。「1年間の動物の様子」では、区の目標値や平均値を15ポイント以上を上回る結果であった。	「知識・技能」「思考・判断・表現」とも、目標値と区の平均正答率を上回っている。特に「知識・技能」は、8ポイント以上、上回っている。	「水のすがた」「物のあたたまり肩」に関する問題では、特に正答率が低く、誤答や無解答が目立った。いずれも「思考・判断・表現」を問う問題である。既習内容を活用したり、考えを記述で答えたりする問題に課題が残った。

[様式2]

令和7年度 第6学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>全ての内容項目について、区や国の平均正答率を上回る結果であった。特に、「漢字を読む」「物語の内容を読み取る」は目標値を10ポイント以上上回った。ただ、「言葉の学習」「報告する文章を書く」「文章を書く」については、正答率が60%台で、他の内容項目と比べると低かった。</p>	<p>2観点ともに、目標値は10ポイント以上上回り、区や全国の平均正答率も大きく上回る結果となった。しかし、設問別に見ると、2観点とも目標値を5ポイント程下回る結果となった問題もあり、同じ観点を問う問題でも理解度の差があることが分かる。</p>	<p>目標値や平均正答率の結果はいずれも良好である。しかし領域別に見ると、「我が国の言語文化に関する事項」や「書くこと」に関する問題は、他に比べて正答率が低い。また、文章を書く問題については、無解答の児童も一定数いることから、自分の考えを書き表すことに苦手意識があることが分かる。</p>
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>全ての内容項目で目標値は上回った。しかし、区の平均正答率と比較すると、「日本の農業」は2ポイント、「自然環境と国民生活」は4ポイント下回る結果となった。この2つの内容は、全国平均正答率を比べても、近似値または下回る結果であり、課題が見られる。</p>	<p>2観点ともに、目標値を上回る結果となった。特に、「知識・技能」については、区平均正答率を6ポイント、全国平均正答率を10ポイント上回っている。設問別に見ても、「知識・技能」に関する問題では、資料を正しく読み取り問題に正答していることがうかがえる。</p>	<p>いずれも目標値は上回ったが、領域別の正答率では「国土の自然などの様子」「農業や水産業(特に農業)」「自然環境と国民生活」が他領域と比べて低い傾向にあった。社会科用語の定着が不十分であったり、資料から読み取ったことをもとにして考えたりする点に課題があると考えられる。</p>
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>ほぼ全ての内容項目について、区や全国の平均正答率を上回る結果となった。特に「整数」「立体と体積」「グラフ」では、それぞれ区や全国の平均正答率を10ポイント以上上回った。ただ「面積」については、全国の平均は上回っているものの、目標値などをわずかに下回る結果となっている。</p>	<p>2観点ともに区や全国の平均正答率、目標値を5ポイント以上上回る結果となった。特に「思考・判断・表現」に関しては区や全国の平均正答率を8ポイント上回り、数学的な見方や考え方を働かせるための授業改善の一定の成果を認めることができる。</p>	<p>4領域の平均正答率は、全て区や全国の平均正答率を上回る結果となった。特に「数と計算」「データの活用」では全国の平均正答率を15ポイント以上上回った。ただ記述する問題では、区・全国の平均を10ポイント以上上回ったものの、正答率が40%以下と低い。</p>
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>半数の内容項目は、区・国平均正答率を大幅に上回った。しかし、残り半数は、目標値と同程度、もしくは下回る結果であった。特に、「魚のたんじょう」については目標値を5ポイント下回り、「けんび鏡の使い方」については目標値と同じ正答率で、理解が不十分であることが分かった。</p>	<p>「知識・技能」「思考・判断・表現」とも、目標値、区・国平均正答率を上回っている。特に、「思考・判断・表現」は、目標値や国の平均正答率を9ポイント上回った。</p>	<p>観点別に見た正答率が高いが、内容項目ごとに見た正答率からは、学習内容の定着度にばらつきがあることが分かる。半数の児童に誤答が見られた「アメダスについて」「顕微鏡のピントの合わせ方」「ふりこの振れ幅」などの問題は基礎問題であるため、基本的な知識の復習が必要だと考える。</p>
英 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>全ての内容項目について、目標値や区や全国の平均正答率を上回る結果となった。特に、「アルファベットの書き(聞き)」「日常会話の理解(聞き)」「アルファベットの書き」「英作文」の正答率は90%を上回り、「単語の読み」については100%の正答率であった。</p>	<p>「知識・技能」「思考・判断・表現」とも、目標値、区・国平均正答率を大きく上回っている。目標値と比較すると、「知識・技能」は13ポイント、「思考・判断・表現」は14ポイント上回った。</p>	<p>領域別正答率では、「読むこと」「書くこと」も領域で全国の平均正答率を10ポイント以上上回った。「聞くこと」も7ポイントと大きく上回ってはいるが、他領域と比較するとやや低い。今後も、英語の発音を聞き取ることに慣れ親しんでいく必要がある。</p>